北海道女性医師の会 主催 市民講演会

このままでいいの？DVと医療

〈医療現場におけるDV被害者への対応改善に向けて〉

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは「親密な関係にあるパートナーからの暴力」のことをいいます。
ここでいう「暴力」の形はさまざまで、身体的、精神的、性的経済的など、多面的な要素を含んでいます。
DV被害者の早期発見の場となることの多い医療機関で、いかなる対応が求められているのか・・、今後の医療現場の対応に役立つ、生きた実践を提示してくれる講演会を企画しました。
最前線の現場で活躍されているお二人の講師をお迎えし、DVの現状、医療機関の役割と、今後への課題を会場の皆さんとともに探って行きたいと考えております。
多くの方のご参加をお待ちいたしております。

講師：加藤治子さん

阪南中央病院産婦人科医師（大阪府松原市）
「女性の安全と医療支援ネット SACHICO」準備室長
はるウィメンズクリニック院長

阪南中央病院に30年勤務する中で、生活背景も含めて女性の一生を診ることの必要性を痛感。
働く女性の健康やDV、性暴力、思春期、十代の性の問題にも積極的に関わっている。

講師：近藤恵子さん

NPO法人 女のスペース・おん代表理事
NPO法人 全国女性シェルターネット共同代表

1993年の春、女性の人権ネットワーク事務局「女のスペース・おん」を札幌に開設。DVサポートシェルターの運営を行い、女性への暴力根絶を柱とした運動を展開している。現在は、性暴力禁止法の制定に取り組んでいる。

日 時 2010年2月13日（土） 午後2時～午後4時半
場 所 佐藤水産文化ホール
札幌市中央区北4条西3丁目交洋駅前ビル3階
（電話0120－310－643）
定 員 130名（どなたでも参加できます）

入場無料

お問い合せ先
北海道女性医師の会 事務局 HP http://www.hmwa.jp//
札幌医科大学 耳鼻咽喉科教室内 FAX011－615－5405